

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 神戸大学

## 【構想の名称】(タイプA-1) 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【構想の概要】グローバル化の進む今日においては、自然災害であるか人災であるかを問わず、近隣諸国との密接な協力の下、被害拡大防止に向けた迅速な活動に取り組むことのできるグローバルな人材養成が急務である。

本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院及び高麗大学校国際大学院がコンソーシアムを形成し、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた同一かつ質の高い協働教育を展開する。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

【グローバル人材像】①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営等社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。



〈復旦大学〉

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### ○大学間交流の枠組みの形成

三大学の教員と事務職員で形成されるコンソーシアム運営委員会を設置し、運営委員会がカリキュラムの構成、単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るまでの運営を行うとともに、評価委員会では外部からの視点を含めた評価を行って、大学院教育における質の保証を担保する。

### ○単位の相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセス

三大学間において本交流プログラムに沿った各大学特有のリスク・マネジメント履修コースを設定し、本コンソーシアム運営委員会において各大学の履修コースのカリキュラムの質及び水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し同質性を確保する。各コースの講義科目を履修及びインターンシップを実施した大学院生の成績については、コース設定大学が自国の基準により評価・認定するが、最終的には運営委員会におけるコース修了判定を経て各コースの修了証を交付する。交換留学制度による大学間における取得単位は、所属大学の規則に定められた基準により修了要件の単位として認定される。また、神戸大学と高麗大学校間のダブル・ディグリープログラム協定により定められた要件により単位相互互換が認められた場合は、両大学の学位授与審査の上、双方の学位が授与される。

〈高麗大学校〉



## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○シラバス

三大学のシラバス等については、英語に翻訳し、各大学の講義目的・概要、講義内容の質や成績評価の可視化を図る。

### ○大学内外への広報体制について

本プログラムにおいては、ホームページ、ワークショップ及びパンフレットの3つの媒体を通じて積極的に情報公開をする。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○履修面・学習面・生活面にわたるサポート

指導教員は自らの指導する大学院生に対する研究教育指導を定期的に行う。派遣学生は指導教員に対して派遣期間中の月1回レポートを作成し、指導教員に送付する。プログラム担当教員・事務職員が、派遣学生の履修状況について確認するとともに、留学前、留学中、帰国後の学業生活や就職活動等における体系的な情報をメールやスカイプを通じて提供できる体制を構築している。派遣学生毎に設定されたチューターが、派遣学生の生活レベルの相談に応じる。

### ○産業界・公共機関・国際機関等との連携について

国内外におけるインターンシップの体験の機会及び産業界等からの講師等の派遣は確保されている。また、現地の大学において現地就職説明会等の参加を派遣学生に対して積極的に勧奨するとともに、公共・国際機関及びNPOの関係者に学生が話を聞くことの出来る機会を積極的に設けている。中国においては、神戸大学中国事務所を活用し、就職に関する情報や同窓生に関する情報を提供する。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○日本人学生の派遣

平成23年度には高麗大学校へ1名、平成24年度には復旦大学、高麗大学校へ年3名程度の派遣を行う。平成25年度～平成27年度には中韓両国に対して毎年5～8名程度の派遣を行う。

### ○外国人留学生の受入れ

平成24年度には復旦大学、高麗大学校より年3名程度の受入れを行う。平成25年度～平成27年度には中韓両国に対して毎年5～8名程度の受入れを行う。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	1	6	10～16	10～16	10～16
学生の受入		6	12～16	12～16	12～16

# 大学の世界展開力強化事業 取組実績 神戸大学

**【構想の名称】**(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program) 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム  
**【プログラムの目的・養成する人材像】**神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。  
**〈グローバル人材像〉**①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。  
**【構想の概要】**グローバル化の進む今日においては、自然災害であるか人災であるかを問わず、近隣諸国との密接な協力の下、被害拡大防止に向けた迅速な活動に取り組むことのできるグローバルな人材養成が急務である。本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)がコンソーシアムを形成し、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた同一かつ質の高い協働教育を展開する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置

〈復旦大学SIRPAと高麗大学校GSIS〉

### ○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意した。これにより、神戸-高麗、神戸-復旦での2年間でのダブル・ディグリー取得に向けた準備が整った。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が既に締結されている高麗大学校国際大学院(GSIS)との間では、プログラム実施に向けて具体的な細則を整備した。復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)との間でも、同様の協定・細則の締結について既に合意に達している。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈三大学共同キックオフ・シンポジウムの様子〉



### ○ 国際シンポジウムの開催

日中韓三大学共同キックオフ・シンポジウム(平成24年2月23日)を開催し、3か国から60名以上の教職員や大学院生が参加し、リスク管理をめぐる日中韓三大学の緊密な協力関係の必要性を確認した。

### ○ 各大学の学習・生活環境視察

平成24年3月に復旦大学・高麗大学校を訪問し、学舎および寄宿舎の環境を視察するとともに、両大学院スタッフとの交流を通じて、相互の協力体制の構築を進めた。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

本学大学院生1名を、交換留学生として高麗大学校国際大学院へ派遣している(平成24年2月~6月の予定)。平成24年度の派遣に係る募集についての説明会を行い、現在審査中である。

### ○ 外国人留学生の受入

平成24年度より受入れ開始予定であり、復旦大学・高麗大学校でそれぞれ選考が進められている。両大学とも、神戸大学への平成24年度派遣学生数は、計画通りの3名ずつとなる見通しである。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C3, K3	12~16	12~16	12~16
中国への受入	0	J3, K3	10~16	10~16	10~16
韓国への受入	J1	J3, C3	10~16	10~16	10~16

注)H23は実績、H24以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 「キャンパスアジア室」の開設

本プログラムに基づいて留学を希望する本学学生への対応と、今後受入れが予定されている復旦大学・高麗大学校からの留学生に対するケアを目的として、中韓米国での教育経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を開設した。

### ○ 事前教育カリキュラムの整備

復旦大学・高麗大学校における事前教育のためのリソースについて調査を進めるとともに、今夏の受入・派遣留学生のための事前教育プログラムの整備に向けて、準備を進めている。



〈キャンパスアジア室〉

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ パンフレット作成・ホームページの開設

本プログラムの教育内容について内外に周知するパンフレットを作成するとともに、今後の成果を普及させるための基盤として、ホームページ(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html>)を開設した。

### ○ 第1回評価委員会を開催

外部委員も含めた評価委員会を開催し、平成23年度のプログラム活動内容を検証した。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】 神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

〈グローバル人材像〉①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。

【構想の概要】 本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)が協働し、修士課程の学生の交換留学ならびにダブルディグリープログラムを通じて、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた質の高い教育を展開する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置・定期会合の開催

○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意した。これにより、神戸-高麗、神戸-復旦での1年間でのダブル・ディグリー取得に向けた基盤が整った。また、参加三大学の今後の行動方針や学生のみならず教員を含む学術交流の基盤が整備された。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が高麗大学校国際大学院(GSIS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)との間で既に締結されており、具体的な細則も整備された。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



○ 国際シンポジウムの開催： 日中韓三大学共同国際シンポジウム(平成24年11月9日)を上海にて開催した。三か国から60名以上の教職員や大学院生が参加し、リスク管理をめぐる日中韓三大学の緊密な協力関係の必要性が確認された。

○ コンソーシアム以外の大学との調査・交流の実施： 中国:北京大学、韓国:ソウル大学校・弘益大学校・中央大学校、マレーシア・マラヤ大学、等について調査・交流を実施することにより、同プログラムに関連する他大学の動向の調査を進めるとともに、リスク・マネジメント専門家の招聘など、幅広い交流を行った。

○ リスクマネジメントセミナーの開催： 国内外のリスクマネジメント専門家を招聘し、平成24年度においてはセミナーを合計6回開催して、同分野における専門家ネットワークの構築、および学際的な観点からの研究や実践成果の共有を促進した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

神戸大学から復旦大学にダブルディグリー生2名、交換留学生1名(1年間)、高麗大学校にダブルディグリー生2名、交換留学生1名(半年)を派遣した。

○ 外国人留学生の受け入れ

平成24年9月には復旦大学からダブルディグリー生3名、高麗大学校からダブルディグリー生1名、交換留学生1名(半年)、平成25年3月には高麗大学校から交換留学生3名(半年)の大学院生の受け入れを行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C3, K5	C8, K8	C8, K8	C8, K8
中国(C)での受入	0	J3, K3	J8, K8	J8, K8	J8, K8
韓国(K)での受入	J1	J3, C3	J8, C8	J8, C8	J8, C8

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 「キャンパスアジア室」の開設： 留学を希望する本学学生への対応と、復旦大学・高麗大学校からの留学生に対するケアを目的として、中・韓・米の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を開設し、学術、生活の両面からのサポートを行っている。

○ 事前教育カリキュラムの整備： 受入・派遣留学生のため、語学研修、研究計画作成支援等の事前教育プログラムを実施している。

○ リスクマネジメント関連講義の開設、サーティフィケートの発行： リスクマネジメント関連講義として、Risk Management, Disaster Risk Reduction Strategy for Mega Earthquakesを開設し、教育プログラム内容の充実を図っている。また、プログラム修了の証明として、サーティフィケートを発行し、三大学で今後同じフォーマットを共有していく。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ パンフレット作成・ホームページの開設( <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html> )： パンフレットおよびニュースレターを作成するとともに、今後の成果を普及させるための基盤として、日英両言語版のホームページを開設した。

○ 第二回評価委員会を開催： 外部評価委員会ならびに国際シンポジウムを開催し、評価委員や高等教育専門家から大学の国際化に向けたアジア・欧米での実践について知見の共有を図った。また、神戸大学でのプログラム実施状況に対する評価委員からのフィードバックを通じて、本事業の今後の運営に向けて検討を要する事項が示された。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 神戸大学

**【構想の名称】**(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

**【プログラムの目的・養成する人材像】** 神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

(グローバル人材像)①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。

**【構想の概要】** 本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)が協働し、修士課程の学生の交換留学ならびにダブルディグリープログラムを通じて、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた質の高い教育を展開する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置・定期会合の開催

○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意済みである。これにより、神戸 - 復旦 - 高麗の三大学間での1年間でのダブル・ディグリー取得のための基盤が整えられた。また、参加三大学の今後の行動方針や、学生のみならず教員を含む学術交流の基盤も整備されている。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が高麗大学校国際大学院(GSIS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)との間で既に締結されており、具体的な細則も整備済みである。

なお、平成24年度のダブルディグリー生は、派遣(計4名)・受け入れ(計4名)ともに留学先の学位を取得した。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ **国際シンポジウムの開催:** 日中韓三大学共同国際シンポジウムを、平成24年11月9日に上海、平成25年11月1-2日にソウルにて開催した。平成26年度については、11月に神戸で開催の予定である。

○ **リスクマネジメントセミナーの開催:** 国内外のリスクマネジメント専門家を招聘してリスクマネジメントセミナー開催し(平成24年度:6回、平成25年度:5回)、同分野における専門家ネットワークの構築および研究や実践成果の共有を促進した。

○ **コンソーシアム以外の大学との調査・交流の実施:** 中国:北京大学、韓国:ソウル大学校等について調査・交流を通じ、同プログラムに関連する他大学の動向の調査を進めている。



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生(※ 外国籍学生3名を含む)の派遣**

平成25年度、神戸大学から復旦大学にダブルディグリー生2名、交換留学生2名(半年)、高麗大学校にダブルディグリー生2名、交換留学生3名(1年1名、半年2名)を派遣した。

○ **外国人留学生の受け入れ**

平成25年9月以降、復旦大学からダブルディグリー生2名、交換留学生3名(半年)、高麗大学校からダブルディグリー生3名、交換留学生2名(半年)の大学院生の受け入れを行なった。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C3, K5	C5, K5	C8, K8	C8, K8
中国(C)での受入	0	J3, K3	J4, K7	J8, K8	J8, K8
韓国(K)での受入	J1	J3, C3	J5, C6	J8, C8	J8, C8

注)H23~H25は実績、H26・H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **「キャンパスアジア室」による学生支援:** 留学を希望する本学学生への対応と、復旦大学・高麗大学校からの留学生に対するケアを目的として、中・韓・米の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究上・生活上の両面からのサポートを、多言語対応できめ細かく行なっている。

○ **事前教育カリキュラムの整備:** 受入・派遣留学生のため、語学研修、研究計画作成支援等の事前教育プログラムを実施している。なお、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムも、整備済みである。

○ **リスクマネジメント関連講義の開設、サーティフィケートの発行:** プログラム関連講義として、「Risk Management」「Disaster Risk Reduction Strategy for Mega Earthquakes」「Disaster Management」を開設し、教育プログラム内容の充実を図っている。また、プログラム修了の証明として、サーティフィケートを三大学共通のフォーマットで発行している。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ **パンフレット作成・ホームページの多言語化**(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html>): パンフレットおよびニュースレターを作成するとともに、広報および成果公表の基盤として、ホームページを日英中韓4言語対応とした。

○ **第3回評価委員会を開催:** 平成26年2月、外部評価委員会を開催し、評価委員や高等教育の専門家から大学の国際化に向けたアジア・欧米での実践についての知見を共有し、プログラムに対する評価委員からのフィードバックを受けた。

# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度23年度 タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

〈グローバル人材像〉①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。

【構想の概要】本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)が協働し、修士課程の学生の交換留学ならびにダブルディグリープログラムを通じて、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた質の高い教育を展開する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置・定期会合の開催

○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意済みである。これにより、神戸 - 復旦 - 高麗の三大学での1年間やダブル・ディグリー取得を含む学術交流の基盤も整備されている。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が高麗大学校国際大学院(GSIS)、復旦大学国際関係公共事務学院(SIRPA)との間で既に締結され、細則なども整備済みである。

なお、平成25年度のダブルディグリー生は、派遣4名(2名は学位取得済み、2名は学位所得見込み)、受け入れ5名(全員学位取得済み)の合計9名である。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ 国際シンポジウムの開催 日中韓三大学共同国際シンポジウムを、平成24年11月9日に上海、平成25年11月1 - 2日にソウル、平成26年11月20 - 21日に神戸にて開催した。平成27年度については11月にタイ・バンコクでの開催の予定である。

○ リスクマネジメントセミナーの開催： 国内外のリスクマネジメント専門家を招聘してリスクマネジメントセミナー開催し(平成24年度:6回、平成25年度:5回、平成26年度:8回)、同分野における専門家ネットワークの構築および研究や実践成果の共有を促進した。

○ コンソーシアム以外の大学との調査・交流の実施： 中国:北京大学、韓国:ソウル大学校等について調査・交流を通じ、同プログラムに関連する他大学の動向の調査を進めている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生(※外国籍3名を含む)の派遣

平成26年度、神戸大学から復旦大学にダブルディグリー生4名、交換留学生1名(1年)、高麗大学校にダブルディグリー生3名、交換留学生3名(3名とも半年)を派遣した。

○ 外国人留学生の受け入れ

平成26年9月以降、復旦大学からダブルディグリー生3名、交換留学生3名(三名とも半年)、高麗大学校からダブルディグリー生2名、交換留学生2名(二名とも半年)の大学院生の受け入れを行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C3, K5	C5, K5	C6, K4	C8, K8
中国(C)での受入	0	J3, K4	J4, K7	J5, K8	J8, K4
韓国(K)での受入	J1	J3, C4	J5, C6	J6, C5	J8, C0

H23-26年度は実績、27年度は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 「キャンパスアジア室」による学生支援： 留学を希望する本学学生への対応と、復旦大学・高麗大学校からの留学生に対するケアを目的として、中・韓・英の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究上・生活上の両面からのサポートを、多言語対応できめ細かく行っている。

○ 事前教育カリキュラムの整備： 受入・派遣留学生のため、語学研修、研究計画作成支援等の事前教育プログラムを実施している。なお、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムも整備済みである。

○ リスクマネジメント関連講義の開設、サーティフィケートの発行： プログラム関連講義として、「Risk Management」「Disaster Risk Reduction Strategy for Mega Earthquakes」「Disaster Management」を開設し、教育プログラム内容の充実を図っている。また、プログラム修了の証明として、サーティフィケートを三大学共通のフォーマットで発行している。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

○ 教育内容の可視化・ホームページの多言語化(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html>): パンフレット及びニュースレターを作成するとともに、広報及び成果公表の基盤として、ホームページを日英中韓四言語対応としている。

○ 第4回外部評価委員会を開催： 平成27年2月、外部評価委員会を開催し、評価委員や高等教育の専門家から大学の国際化に向けたアジア・欧米での実践についての知見を共有し、プログラムに対する評価委員からのフィードバックを受けた。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度23年度 タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

〈グローバル人材像〉①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関する応用性のある専門的な知識とスキル、②三カ国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。

【構想の概要】本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)が協働し、修士課程の学生の交換留学ならびにダブルディグリープログラムを通じて、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた質の高い教育を展開する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置・定期会合の開催

○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意済みである。これにより、神戸 - 復旦 - 高麗の三大学でのダブル・ディグリー取得を含む学術交流の基盤も整備されている。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が高麗大学校国際大学院(GSIS)、復旦大学国際関係公共事務学院(SIRPA)との間で既に締結され、細則なども整備済みである。

なお、平成26年度のダブル・ディグリー学生は、派遣7名(6名は学位取得済み、1名は学位取得見込み)、受入5名(全員学位取得済み)の合計12名である。



東北フィールドトリップ

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



日中韓三大学共同国際シンポジウム  
(タイ・バンコク)

○ **国際シンポジウムの開催**：日中韓三大学共同国際シンポジウムを、平成24年11月に上海、平成25年11月にソウル、平成26年11月に神戸にて開催した。平成27年度は、11月にタイ・バンコクで開催した。

○ **リスクマネジメント関連講義の開設、サーティフィケートの発行**：プログラム関連講義として、「Risk Management」など3科目を開設し、並行して関連セミナーを開催して(平成24年度6回、平成25年度5回、平成26年度8回、平成27年度7回)教育プログラム内容の充実を図っている。また、プログラム修了の証明として、サーティフィケートを三大学共通のフォーマットで発行している。

○ **コンソーシアム以外の大学との調査・交流の実施**：中国・北京大学、韓国・ソウル大学校等について調査、交流を通じ、同プログラムに関連する他大学の動向の調査を進めている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生(※外国籍3名を含む)の派遣**

平成27年度、神戸大学から復旦大学に交換留学生1名、高麗大学校に交換留学生2名を派遣した。

○ **外国人留学生の受入れ**

平成27年9月以降、復旦大学から交換留学生4名、高麗大学校からダブルディグリー生3名、交換留学生1名の受入を行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C3、K5	C5、K5	C6、K4	C4、K4
中国(C)での受入	0	J3、K4	J4、K7	J5、K8	J1、K4
韓国(K)での受入	J1	J3、C4	J5、C6	J6、C5	J2、C0

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **「キャンパスアジア室」による学生支援**：中・韓・英の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究上、生活上の両面からのサポートを、多言語対応できめ細かく行っている。

○ **事前教育カリキュラムの整備**：受入・派遣留学生のため、語学研修、研究計画作成支援等の事前教育プログラムを実施している。なお、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムも整備済みである。

○ **プログラム拡大への環境整備**：本プログラムの実施に向け、学生募集範囲の博士後期課程への拡大、日中韓トライアングル交換留学の実施、教員連絡会議の定期的開催などに向けた三大学間の準備が進められている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ **教育内容の可視化・ホームページの多言語化**(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html>)：パンフレット及びニュースレターを作成するとともに、広報及び成果公表の基盤として、ホームページを日英中韓四言語対応としている。

○ **第5回外部評価委員会の開催**：平成28年2月、外部評価委員会を開催し、評価委員や高等教育の専門家から大学の国際化に向けたアジア・欧米での実践についての知見を共有し、プログラムに対する評価委員からのフィードバックを受けた。